

# 令和4年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

令和4年10月5日  
青森県病害虫防除所

## トルコギキョウ斑点病の発生について

1. 作物名           トルコギキョウ
2. 病害虫名       トルコギキョウ斑点病  
*Pseudocercospora nepheroides*(=*P. eustomatis*)
3. 発生経過
  - (1) 令和4年9月に津軽地域のトルコギキョウ（ハウス栽培）において、下位葉に黒灰色～黒色のすす状病斑が認められた（写真1）。
  - (2) 青森県病害虫防除所で罹病葉を検鏡したところ、分生孢子（写真2）の形態的特徴から*Pseudocercospora nepheroides*による「トルコギキョウ斑点病」であることを確認した。
  - (3) 本病は平成20年に福岡県で確認されて以降、これまでに24県で確認され、全国に拡大している。東北地方では平成30年に福島県と宮城県で、令和2年に山形県で特殊報が発表されている。
4. 本病の特徴
  - (1) 発生初期は下位葉に5～10mm程度の退緑斑紋（写真3）として現れる。この退緑斑紋上に小黑点（分生子座）が多数形成され、黒灰色～黒色のすす状病斑（写真4）となる。病斑は下位葉を中心に葉の表と裏に現れ、まん延すると上位葉へ進展、やがて葉が枯死する。
  - (2) 分生子柄は角皮下に発達した子座上に束生する。分生孢子は11.2～56.5×3.4～5.6μmの大きさで、1～7の隔壁を有し、分生孢子的離脱痕は肥厚せず、小葉牙上にやや突出した形となる。
  - (3) 盛夏を除き、ほぼ年間を通じて発生する。特に春から秋の多湿条件下で多発する。生態や生活環についての詳細は不明であり、育苗中および本ぼで発生し、分生孢子が感染源になると考えられている。  
現在確認されている宿主植物は、トルコギキョウのみである。
5. 防除対策
  - (1) 多湿条件下で発生が助長されるため、施設内の通風・換気に努める。
  - (2) 被害葉は見つけ次第速やかに除去し、収穫後の残さはほ場外に持ち出して、適切に処分する。
  - (3) 病斑が上位葉まで進展すると商品としての品質が落ち、経済的損失が大きくなるので、早期発見に努め、発生初期から防除を徹底する。
  - (4) 薬剤防除に当たっては、「斑点病」に適用のある薬剤（表1）を使用する。耐性菌発生を防ぐため、同一系統薬剤（FRACコードが同じ剤）の連用を避ける。



写真1 罹病株（下位葉に発生）

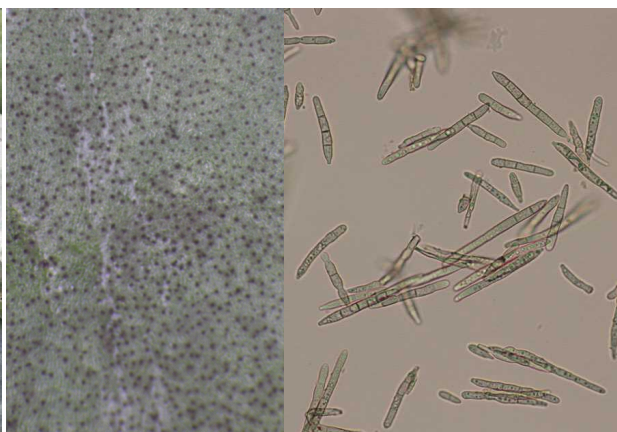


写真2 分生子座と分生孢子



写真3 初期症状（退緑斑紋）



写真4 黒灰色のすす状病斑

表1 トルコギキョウ斑点病に適用のある農薬

農薬名	FRACコード	有効成分	使用時期	希釈倍数	使用回数
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	—	1500倍	5回
パレード20フロアブル	7	ピラジフルミド	発病初期	2000～4000倍	3回
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	発病前～発病初期	2000倍	5回
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ピリベンカルブ	発病初期	3000倍	5回
メジャーフロアブル	11	ピコキシストロビン	発病初期	2000倍	3回
ポリオキシシンAL水溶剤	19	ポリオキシシン	発病初期	2500倍	8回
ダコニール1000	M05	TPN	—	1000倍	6回

注1) ダコニール1000：「花き類・観葉植物(ばら、さく、チューリップ、ゆり、りんどうを除く)」での登録

2) 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

県民の皆さまへのお願い  
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所

〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6

TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900